

地域と創る

「佐久間と天竜川流域の未来プロジェクト」

大石 萌¹

¹ 中部地方整備局 浜松河川国道事務所 開発工務課(〒430-0811 静岡県浜松市中区名塚町 266)

浜松河川国道事務所では、利水専用の佐久間ダムを活用した治水対策と恒久堆砂対策を行う天竜川ダム再編事業を実施している。ダム所在地である浜松市天竜区佐久間町や周辺地域の住民に対して、講演会を中心とした「天竜川勉強会」を 2016 年度から開催し、本事業に対する理解を深めてきた。2022 年度から本勉強会の内容を拡充し、佐久間町の地域振興に資する取り組みとすべく、佐久間町内の有志者を主体とし国土交通省が後援者となり地域密着型のイベント形式の勉強会を試行した。本事業完成後に佐久間地域住民が主体となり、持続的な地域振興の礎となる取り組みについて報告する。

キーワード 住民主体、地域振興、事業の理解促進

1. はじめに

浜松河川国道事務所(以下「本事務所」という)が管理する天竜川は、長野県にある諏訪湖を源として、中央構造線に沿ってほぼ南に流下し遠州灘に注ぐ流路延長 213km、流域面積 5,090 km²の一級河川であり、本事務所では天竜川河口から長野県境までを管理している。天竜川流域には新東名高速道路線や中央自動車道をはじめとする日本の産業・経済の根幹をなす主要な交通が集中し交通の要衝になっている。その一方で古くから「暴れ天竜」と呼ばれるほど多くの洪水による被害を受けてきた。このため、1956 年に完成した利水専用の佐久間ダムを活用し、新たに洪水調節機能を確保することで天竜川中下流部の洪水被害の軽減を図る天竜川ダム再編事業(以下「本事業」という)を 2004 年度より着手、2009 年度から建設に移行し事業を推進している。

本事業では天竜川流域住民に向けて、佐久間ダ

ムの完成後 60 年を迎えた 2016 年度から「天竜川勉強会」として講演会形式の勉強会を開催し、本事業の知名度の向上及び事業促進への理解を深めている。本稿においては、本勉強会を拡充することで、中山間地域の課題を解決し、地域振興に資することを目的として、本事業と地域との連携体制構築の取り組みについて述べる。

2. 佐久間町を取り巻く現状と課題

佐久間ダムの所在地である浜松市天竜区佐久間町(図-1)は浜松市の北部に位置する中山間地域である。本地区における現状と課題について整理した。



図-1 佐久間町と周辺地域の位置図

(1) 少子高齢化

佐久間町では年々少子高齢化が進み、高齢者の一人暮らしの単身世帯も進行している。佐久間ダム完成当時に約2万5千人の人口も年々減少傾向にあり、現在では約2,740人まで減少していることから、地域コミュニティの維持や林業など第一次産業などの経済活動の継続が課題である。¹⁾ (図-2)

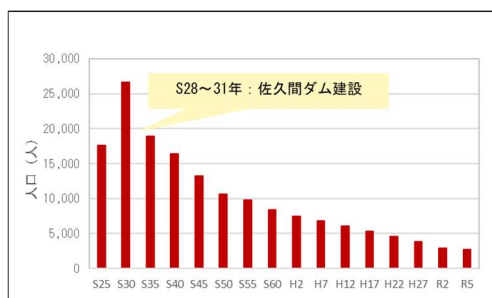


図-2 佐久間町の人口推移

(2) ストロー現象

佐久間町近傍では、浜松と南信地域の交通ネットワークを構築する三遠南信自動車道を整備中である。三遠南信自動車道²⁾により中央自動車道や新東名高速道路が連結されることにより、都市圏や周辺地域からの人流がより加速化し、観光客の増加や物流の進展等が期待されうる。また、三遠南信地域の交流促進や連携強化だけでなく、高速サービスの提供や災害に強い道路

網の構築、地域医療サービスの向上も期待されるなど地域経済、生活面において重要な道路整備である。その一方で、浜松市や東京など都市圏へのアクセスが容易になることにより人口流出や通過交通の進行に伴う更なる地域衰退を引き起こすストロー現象が懸念される。

(3) 観光資源

佐久間町周辺には、天竜川水系や竜頭山といった豊かな自然環境だけでなく、はなの舞や歌舞伎といった「静岡県指定無形民俗文化財」である神事や伝統芸能、民話が数多く残る風情ある魅力の詰まった地域である。また佐久間ダムは堤高155mの建設当時は日本一の大ダムであり、現在でも土木史に残る日本屈指の土木構造物である。また、ダム湖である佐久間湖も「ダム湖100選」に選定されており、ダム本体と合わせてインフラツーリズムに資する観光資源としての潜在的価値が高い。しかし、佐久間町自体と合わせこれらの個々の観光資源の認知度が低く、三遠南信道開通後の観光交流に対する課題となっている。

3. 本事業との連携による地域活性化

本事業をインフラツーリズムの対象として魅力向上を図るため、以下の3つの視点で方策を検討した。

- (1) 来場者の消費活動を活性化するための地域の仕掛け
- (2) 官主導から地域主導で持続的に進めていくことへの転換
- (3) 来場者に長期滞在や宿泊してもらうための取り組み

これらの視点は、ダム再生を円滑に推進するために、地域振興に資する国による全国の事例の共有を図るために策定された「ダム再生ガイドライ

ン」においても提唱されている。

本ガイドラインにおいて、「ダムを活用した地域振興」に関しても地域のニーズを把握するとともに、地域と連携し、既設ダムをはじめとするダム再生事業を観光資源等とした地域振興を推進することが望ましい」とされており、これらを踏まえて佐久間町が抱える課題の解決に取り組む。

(1) 官主導から地域主導で持続的に進めていく

ことへの転換

本方策への取り組みとして、本事業の取り組みである天竜川勉強会を活用することで、佐久間町と本事業がそれぞれ掲げる目標の達成に繋がる。佐久間町が掲げる目標として、佐久間町の魅力発信が挙げられるが、単発的でなく持続的に行う必要があることから、佐久間町民のあらゆる世代が一致団結して地域振興を行うことが大切である。特に次世代を担う佐久間町の若い世代が地元で活躍できる場が創造されることが重要である。

また本事業では、円滑な事業推進を図ることを目標に掲げる。そのためには水源地の活性化を図ることが重要である。その理由として、ダムを活用することで水害を防いだり、渇水に対応したりする治水効果を図ることが出来るものの、ダム下流域にのみ効果を発揮するため、水源地ではダム建設や再開発に対して消極的な意見を持たれることが一般的に多いためである。

過年度の天竜川勉強会に実施した参加者の年齢層別(図-3)及び居住区別(図-4)のアンケート結果によるところ、天竜川勉強会の開催回数を重ねるごとに佐久間町からの参加者が減少した事と、全体的に40歳未満の参加者が少ない事が判明した。

そこで本事業では新型コロナウイルスの感染拡大を懸念して約2年間休止していた天竜川勉強会の体制を、再スタートを切った2022年度を機に、従来の講演形式を残しつつ新たに佐久間町民に寄り添った小規模のイベント形式を中心

にした天竜川勉強会に変更した。

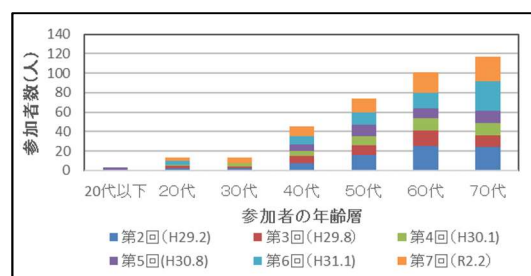


図-3 参加者の年齢層の推移

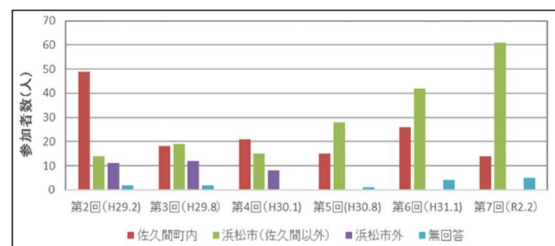


図-4 参加者の居住区

また、地域振興を拡充する勉強会の開催にあたって、佐久間町在住の有志者から構成した任意団体である「佐久間と天竜川流域未来プロジェクト」(以下「未来プロジェクト」という)を設立した。

天竜川勉強会の主催を未来プロジェクトメンバーが行い、国土交通省や浜松市、佐久間ダムの管理者である(株)電源開発等は後援者になる事で、佐久間町民が主体となることが狙いである。これまでとは体制を大きく変え、新たな組織体制での意思統一、協働の萌芽を図ることを目的に、未来プロジェクトメンバーとともに佐久間町内の小学生以上とその保護者を対象にした「おさかな観察会」を開催した。(図-5)

おさかな観察会の目的は、天竜川水系の大千瀬川の河川環境に着目し、その川に生息する魚に子どもたちが直接触れ合うことで地元の川の魅力を知り、学ぶ機会を創出すると同時に、おさかな観察会を通して参加家族間の交流や地域内での繋がりを育む事ができることである。本観察会では、魚に関するだけでなく、川の事故に遭わずに楽しく遊ぶために大切な知識を身につけてもらえるよう、水難事故防止の親子勉強会を開催した。

佐久間町に関わらず、昔に比べ子どもたちは河川や山などの自然に触れ合う機会が減り、馴染みのない存在になりつつあるが、子どもたちが本勉強会に参加することで、故郷の川を身近に感じるきっかけとなったと参加者から感想をいただいた。なお、水難事故防止の教材として、河川財団と国土交通省作成した『うんこドリル』を活用することで、普段河川になじみがない子供たちに、安全な河川利用の知識の習得に集中していただいた。



図-5 おさかな観察会の様子

(2) 来場者の消費活動を活性化するための 地域の仕掛け

三遠南信自動車道の整備に伴う佐久間町に対する通過交通の抑制を図り、来場者を誘導し、消費活動を活性化するための地域の仕掛けとして、天竜川流域住民を対象とした講演形式の大規模勉強会と佐久間町の特産品を販売するマルシェを融合した「出張さくマルシェ 佐久間の食文化を語り合おう」を企画し開催した。

「出張さくマルシェ 佐久間の食文化を語り合おう」とは、三遠南信自動車道の整備や佐久間地域の食文化を通じて、佐久間町の過去と未来を語り合うことを目的に広く一般参加者を対象にした大規模勉強会である。

2023年2月23日に開催した本イベントでは、本事務所長による三遠南信自動車道の開通と佐久間地区の地域活性に関する講演(図-6)や未来プロジェクトの一員である大学生と佐久間町住

民によるトークセッションと合わせ、地域の名産の五平餅やそば、鮎のオイル漬けなど地元食材を活用した「さくマルシェ」の出店を行った。「さくマルシェ」とは、佐久間町を盛り上げるために2017年から毎月第2・4日曜に三遠南信自動車道の佐久間IC近くで開催している朝市であり、佐久間町内の店舗が出店し、地元で採れた農作物やそれらを加工して食品などを販売している(図-7)。大規模勉強会と合同で開催することにより、事業に対する興味を促し理解を深めつつ、来場者の消費活動を促すという相乗効果を期待するものである。

これらの目的のため、三遠南信道の近傍である浦川IC沿いの「浦川ふれあいセンター」入口を会場にして、重要なインフラを活用し、理解を促しながら買い物を楽しんでもいただくイベントとなるよう開催した。



図-6 大規模勉強会による賑わいの様子



図-7 さくマルシェ開催位置図
(浦川IC 沿い)

(3) 来場者に長期滞在や宿泊してもらうための 取り組み

将来的に来場者に長期滞在や宿泊してもらうための取り組みとして、佐久間ダムをはじめとする佐久間町内の観光資源を活用する。豊かな自然があふれる佐久間町には大千瀬川に挟まれ隔絶した自然豊かな環境を満喫できる上島キャンプ村が存在し、浦川キャンプ村以外にも浦川 IC 周辺や周辺地域に人気が高いキャンプ場が数多く、コロナ禍においても衰えず、近年のアウトドアブームをけん引する存在である。これらの活用により、宿泊を伴う観光も可能である。2022 年度の小規模勉強会の一環で将来的な観光地化の前段として、未来プロジェクトメンバーを対象に佐久間ダムの構造や歴史、天竜川流域の地質や岩質についてプロジェクトメンバーが率先して学ぶことで、観光資源としての佐久間ダムの魅力や地域振興の可能性を再認識し地域の魅力に気づきを与えることを目的とした「佐久間ダム見学会」を開催した(図-5)。



図-5 ダム見学会の様子

4. 天竜川勉強会における効果と課題

(1) 天竜川勉強会開催によって得られた効果

3 回に渡って開催した天竜川勉強会の主軸を佐久間町民に切り替えたことで、企画・運営をする過程で佐久間町民が地元に向き合う機会を生み出し、積極的に活動するきっかけを創ることができた。それに加え、企画検討当初は天竜川

勉強会の開催が新型コロナウイルスの影響により 2 年ぶりとなったことで、天竜川勉強会の衰退を懸念していたが、地域住民が沢山参加してくださった。これらのことから、天竜川勉強会の再開が、佐久間町が目指す地域振興を担う為の手段になれたことで、「本事業と地域との連携体制の構築」という本事業の目標に近づくことができた。

(2) 今後に向けた課題点

2022 年度の開催により順調な再スタートを切った天竜川勉強会だが、まだ天竜川勉強会の基盤が構築したばかりが故に天竜川勉強会や佐久間町の取り組みの知名度はまだ高いとは言えない。また、未来プロジェクトメンバーに若い担い手も所属しており、世代を超えて一致団結して天竜川勉強会の運営を実施できたものの、未来プロジェクトメンバーに占める若い世代はまだ低く、彼らを主軸に活躍する機会があまりなかったため、2023 年度以降は若い世代も仲間に引き入れたり、若者にも積極的に企画や運営を行ってもらったりすることで、更なる活気を生み出す。

5. 今後の展開

(1) 2023 年度開催予定の天竜川勉強会

未来プロジェクトメンバーであり、浜松市の取り組みとして中山間地域を支援する「浜松山里いきいき隊(地域おこし協力隊)」(以下、「山いき隊」という)所属の若者らを中心に、佐久間ダム周辺の水辺利用をテーマにし、佐久間町ならではの良さを盛り込みつつ、2022 年度以上にパワーアップした天竜川勉強会を企画していただいた。

(2) 将来像

天竜川勉強会の再開に向けて 2021 年度に有志

天竜川勉強会は、佐久間町民が主体となり地域振興を担うための基盤となったが、本事業の完了後も地元住民が主体となり持続的に地域活性化に向けた取り組みを行うことができる体制を構築することが望ましい。

- 1) 浜松市：統計情報：国勢調査
浜松市：町字別・年齢別人口表
- 2) 国土交通省 水管理・国土保全局，
河川環境課 流域管理室，
治水課 事業監理室：
「ダム再生ガイドライン」平成30年3月

年度		2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
地域振興目標		【短期目標】 地域住民との信頼関係構築 （地域と協働しつつ、地域振興支援）						【中長期目標】 天ダム事業連携も踏まえた佐久間地区で 住民が住み続けられる地域振興実施			
事業振興施策	既存勉強会										
	小規模勉強会										
	高校との連携										
	民間業者との連携施策										
天竜川ダム再編事業											事業完了